

人も地球も健康に

Yakult

株式会社ヤクルト本社

第56期
中間期

株主通信

平成19年4月1日～平成19年9月30日

CONTENTS

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 01 株主の皆さまへ／連結業績ハイライト | 10 中間個別財務諸表等 |
| 03 セグメント別業績概況 | 11 会社情報 |
| 06 所在地別セグメント概況 | 13 蕃爽麗茶(ばんそうれいちゃ)のおはなし |
| 07 中間連結財務諸表等 | |



To Our Shareholders — 株主の皆さまへ

ごあいさつ



株主の皆さまには、ますますご清祥のことと心からお喜び申し上げます。

ここに、平成19年4月1日から平成19年9月30日までの経営成績につきまして、連結の業績を中心にご報告申し上げます。

平成19年12月 代表取締役社長

堀 澄也



私たちは、生命科学の追究を基盤として、
世界の人々の健康で楽しい
生活づくりに貢献します。

当中間期について

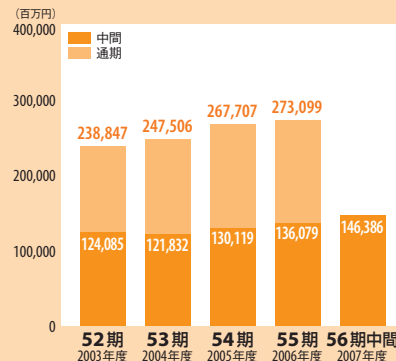
当中間連結会計期間におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界金融市場の混乱による景気への影響が懸念されたものの、企業収益の拡大が支えとなって、輸出や設備投資が増加するとともに、雇用環境の改善によって個人消費も底堅く推移するなど、景気は回復基調を持続するという状況で推移しました。

このような状況のなかで当社グループは、事業の根幹であるプロバイオティクス(人の健康に有益な働きをする生きた微生物)の普及活動を展開し、商品の優位性を訴求してまいりました。また、販売組織の拡充、新商品の研究開発や生産設備の整備に加え、海外事業や医薬品事業にも積極的に取り組み、業績の向上に努めました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は146,386百万円(前年同期比7.6%増)となりました。利益面においては、経常利益は18,268百万円(前年同期比1.6%増)、中間純利

連結業績ハイライト

● 売上高



益は10,309百万円（前年同期比23.6%増）となりました。主力である飲料および食品製造販売事業部門では、国内販売はやや落ち込んだものの、海外販売が順調に拡大しました。医薬品製造販売事業部門では、がん化学療法剤を中心とする販路拡大によって、国内外で前年同期を大きく上回る実績を残すことができました。

通期の見通し

平成20年3月期通期の連結業績については、売上高は堅調に伸長するものの、原材料価格の高騰や仕入れ商品の値上げによる影響などを受けて営業費用が増加すると見ており、売上高は313,000百万円（前期比14.6%増）、経常利益は31,000百万円（前期比7.8%減）、当期純利益は15,500百万円（前期比4.7%増）と予想しております。

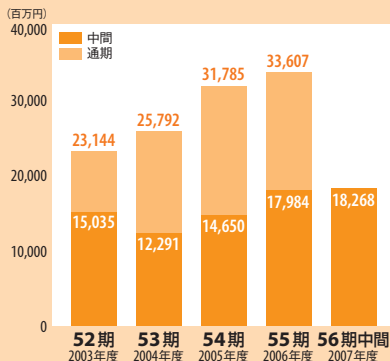
株主の皆さまへ

当社は、利益配分を重要な経営方針のひとつとして位置づけ、平成17年3月期以降、株主の皆さまへ、より積極的な利益還元を行うため、「安定した配当を継続することを堅持しつつ、毎期の業績に応じた配当政策」を実施しています。

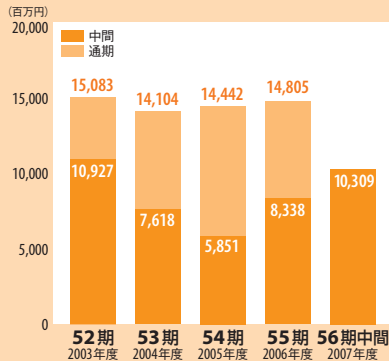
平成20年3月期の中間配当金につきましては、従来どおり7円50銭とさせていただきます。「当期の業績に応じた配当」につきましては、今期の業績を、より高い精度で見通せる時期になったところで、あらためて検討することとしますが、現時点では、本年5月発表の今期配当予想どおり、年間配当金として18円を予定しています。

株主の皆さまにおかれましては、何卒倍旧のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

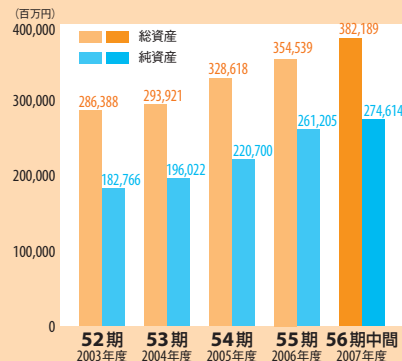
● 経常利益



● 中間（当期）純利益



● 総資産／純資産



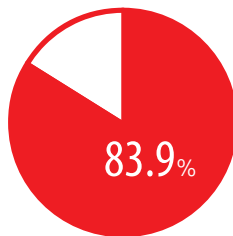
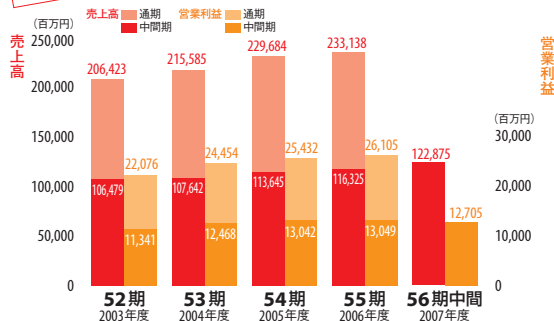
Financial Result by Segments — セグメント別業績概況

飲料および 食品製造販売 事業部門

中間期

売上高 122,875 百万円
(前年同期比：5.6%▲)

営業利益 12,705 百万円
(前年同期比：2.6%▼)



売上高構成比

乳製品については、主力商品である「ヤクルト400」および「ヤクルト」が前年同期を大きく上回る実績を示し、引き続き好調に推移しましたが、乳製品全体では前年同期をわずかに下回る実績にとどまりました。一方、ジュース・清涼飲料については、「蕃爽麗茶」をはじめとする健康機能性食品の売り上げが伸び悩んだことから、ジュース・清涼飲料全体では前年同期の実績を下回りました。一方で海外での販売実績は順調に推移しており、各地域の売上高は大きな伸びを示しました。この結果、当事業部門の連結売上高は122,875百万円（前年同期比5.6%増）となりました。

Topics

2007上期 ニュース&ピックアップ

「ヤクルトの生乳たっぷりヨーグルト」 (350g) を発売

「ヤクルトの生乳たっぷりヨーグルト」(350g入り・砂糖不使用)が10月、地区限定(東北、関東、甲信越、静岡)で発売になりました。6月に発売し、ご好評をいただいている80g・2個パック入り商品のシリーズ品です。新鮮でおいしい生乳を3種の乳酸菌ではっ酵させ、すっきりとした酸味と生乳ならではのコク・なめらかさを兼ね備えた風味を楽しむ、素材にこだわったヨーグルトです。

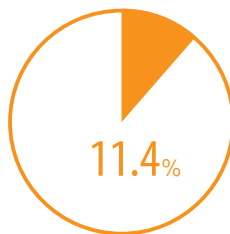
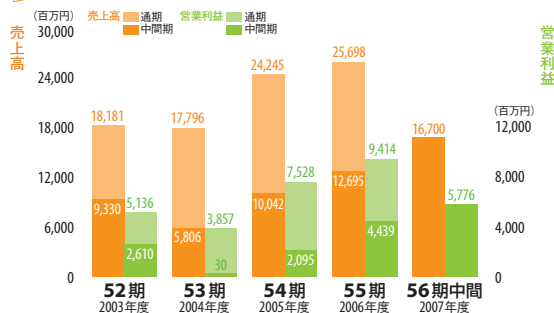


医薬品 製造販売 事業部門

中間期

売上高 16,700 百万円
(前年同期比：31.5%▲)

営業利益 5,776 百万円
(前年同期比：30.1%▲)



売上高構成比

がん化学療法剤「エルブラット」の適正使用を最重点に営業活動を展開しました。また、がん化学療法剤「カンプト注」や制吐剤「シンセロン錠」などに加え、本年7月には「エルブラット」や「カンプト注」と併用されることの多い活性型葉酸製剤「レポホリナートヤクルト」を発売し、がん領域への特化と販路拡大に力を注ぎました。医薬部外品では昨年6月に発売した「ヤクルトBL整腸薬S錠」の売り上げ増大に努めました。この結果、国内外ともに前年同期を上回る実績となり、当事業部門の連結売上高は16,700百万円（前年同期比31.5%増）となりました。

ベトナムホーチミン市で 「ヤクルト」の先行販売をスタート

WTOに正式加盟するなど急速な経済発展を遂げているベトナムのホーチミン市で9月、「ヤクルト」の先行販売を開始しました。

ベトナムでは現在、グループダノンとの合併で設立したベトナムヤクルト株式会社が工場を建設中で、2008年4月には現地生産が始まる予定です。今回の先行販売

は、新工場稼働後の本格販売を視野に入れ、インドネシアヤクルト株式会社から「ヤクルト」を輸入し、ベトナム最大の経済・商業都市であるホーチミン市で「ヤクルト」の浸透を図るという取り組みです。

ベトナムでの「ヤクルト」の販売開始によって、ヤクルトグループの海外販売網は29の国と地域に広がりました。



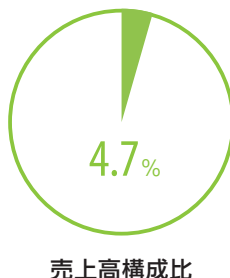
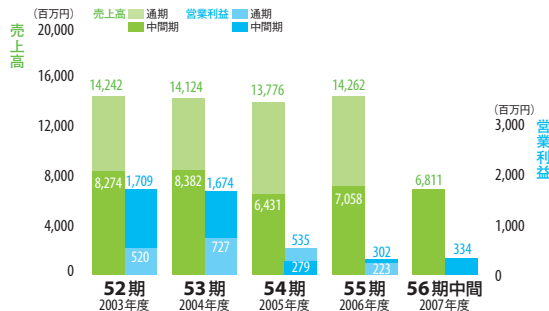
Financial Result by Segments — セグメント別業績概況

その他 事業部門

中間期

売上高 6,811 百万円
(前年同期比：3.5% ↓)

営業利益 334 百万円
(前年同期比：10.6% ↑)



化粧品については、本年3月に発売した「パラビオ」進化型シリーズのベーシックケア4品が好調な実績で推移しましたが、他の基礎化粧品については厳しい営業展開を余儀なくされたことから、化粧品全体としては前年同期を下回る実績にとどまりました。一方、プロ野球興行については、昨年に引き続き、改革プロジェクト「F-Project (エフプロジェクト)」の活動により、積極的なファンサービスや情報発信を行うとともに、神宮球場において各種イベントを実施するなど、入場者数の増大に努めました。この結果、当事業部門の連結売上高は6,811百万円(前年同期比3.5%減)となりました。

高級基礎化粧品

「パラビオ」進化型5品目を追加販売

エイジングコントロールの高級基礎化粧品「パラビオ」進化型シリーズに10月、新たに5品目が加わりました。「パラビオ」は当社化粧品事業の基幹ブランドで、1995年の発売以来、40代以上の女性を中心としたお客さまに大変なご好評をいただいています。

「パラビオ」進化型シリーズは、従来よ

りもさらに浸透力や保湿力を向上させた独自の保湿成分「ラメラ粒子進化型」などの新成分を配合した新シリーズ。本年3月に発売した4品目に今回の5品目を加え、合計9品目のラインアップとなりました。

ヤクルトビューティによるカウンセリング型訪問販売でお求めいただけます。



Financial Result by Regions — 所在地別セグメント概況



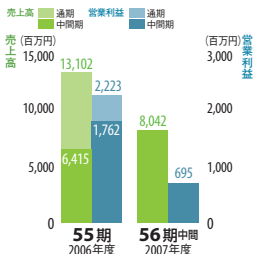
ヨーロッパ地域

売上高 **80 億円** (前年同期比: 25.4%▲)



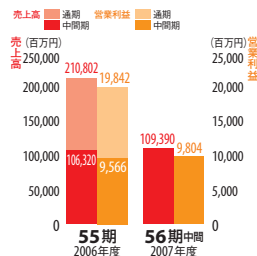
ヨーロッパ地域

競 合他社の攻勢もあり、競争が激化していますが、本年2月に新商品「ピフィーネ」を発売するなど、積極的な営業活動によって、業績は堅調に拡大しています。



日本

売上高 **1,093 億円** (前年同期比: 2.9%▲)



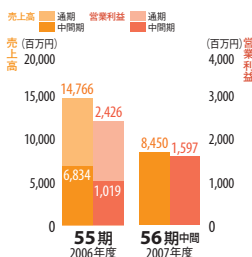
アジア・オセアニア地域

売上高 **84 億円** (前年同期比: 23.6%▲)



アジア・オセアニア地域

現 地の経済成長とともに市場は順調に拡大しています。2002年6月の販売開始以来、順調に売り上げを伸ばしている中国では、本年4月に天津、6月に蘇州および無錫、9月に杭州で販売を開始するなど、販売エリアを順次拡大しています。また、ベトナムでは現在生産開始の準備を進めていますが、それに先行して、9月からホーチミン市で「ヤクルト」の販売を開始しました。



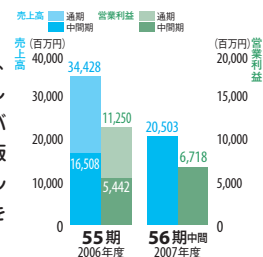
米州地域

売上高 **205 億円** (前年同期比: 24.2%▲)



米州地域

× キシコでの売り上げが好調で、前年同期を大幅に上回りました。また、本年7月からカナダのバンクーバーで「ヤクルト」のテスト販売を開始、9月には米国カリフォルニア州で「ヤクルト」の本格販売を開始しました。



Consolidated Financial Statements — 中間連結財務諸表等

中間連結貸借対照表

単位：百万円

科目	第55期 平成19年3月31日現在	第56期(中間期) 平成19年9月30日現在
資産の部		
流動資産	165,580	187,162
現金及び預金	77,109	83,787
受取手形及び売掛金	48,426	56,783
有価証券	257	258
たな卸資産	30,548	31,579
繰延税金資産	4,254	5,799
その他	6,007	10,127
貸倒引当金	△ 1,023	△ 1,173
固定資産	188,958	195,026
有形固定資産	101,590	109,051
建物及び構築物	34,513	37,151
機械装置及び運搬具	23,994	26,357
土地	32,889	33,687
その他	10,192	11,854
無形固定資産	5,101	4,867
のれん	1,457	1,311
その他	3,643	3,556
投資その他の資産	82,266	81,108
投資有価証券	70,053	68,275
繰延税金資産	4,347	5,091
その他	10,540	10,413
貸倒引当金	△ 2,674	△ 2,672
資産合計	354,539	382,189

科目	第55期 平成19年3月31日現在	第56期(中間期) 平成19年9月30日現在
負債の部		
流動負債	67,773	79,980
支払手形及び買掛金	26,183	29,765
短期借入金	9,026	14,834
賞与引当金	3,875	4,751
役員賞与引当金	184	84
その他	28,504	30,545
固定負債	25,560	27,593
長期借入金	1,673	4,108
退職給付引当金	16,457	16,500
役員退職慰労引当金	898	983
工場再編損失引当金	2,372	1,624
その他	4,159	4,376
負債合計	93,334	107,574
純資産の部		
株主資本	227,381	235,960
資本金	31,117	31,117
資本剰余金	40,955	40,955
利益剰余金	158,053	166,678
自己株式	△ 2,744	△ 2,791
評価・換算差額等	8,906	9,539
その他有価証券評価差額金	5,969	3,267
為替換算調整勘定	2,936	6,272
少数株主持分	24,916	29,114
純資産合計	261,205	274,614
負債・純資産合計	354,539	382,189

Consolidated Financial Statements — 中間連結財務諸表等

中間連結キャッシュ・フロー計算書

科目	第55期(中間期)	第56期(中間期)
	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	16,832	19,599
減価償却費	4,338	5,213
減損損失	136	—
諸引当金の増減額	1,467	598
受取利息・受取配当金	△1,485	△1,969
支払利息	53	98
持分法投資利益	△2,238	△2,023
有形固定資産除売却損益	385	79
その他損益	423	626
売上債権の減少(△増加)額	△5,005	△7,594
たな卸資産の減少(△増加)額	△790	△689
仕入債務の増加(△減少)額	158	3,360
その他資産負債による増減額	1,808	△1,897
役員賞与の支払額	△207	—
小計	15,877	15,402
利息及び配当の受取額	2,091	2,667
利息の支払額	△52	△93
法人税等の支払額	△5,767	△6,234
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,149	11,742
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入・払出による増減額	△248	857
固定資産の取得による支出	△7,999	△12,750
固定資産の売却による収入	1,045	536
投資有価証券の取得による支出	△2,902	△1,389
投資有価証券の売却等による収入	715	34
連結範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	—	△10
資金貸付による支出	△602	△87
貸付金回収による収入	268	82
その他	△278	△597
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,002	△13,323

単位：百万円

科目	第55期(中間期)	第56期(中間期)
	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額	82	5,988
長期借入による収入	—	3,025
長期借入金返済による支出	△485	△1,010
自己株式の取得による支出	△6	△5
少数株主による株式払込収入	503	383
配当金の支払額	△1,481	△1,830
少数株主に対する配当金の支払額	—	—
その他	7	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,381	6,548
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,024	2,405
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△1,259	7,372
現金及び現金同等物期首残高	71,299	70,999
連結追加に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	164
現金及び現金同等物中間期末残高	70,039	78,535

ポイント

営業活動によるキャッシュ・フローは、11,742百万円（前年同期比407百万円の収入減）となりました。税金等調整前中間純利益は、19,599百万円、法人税等の支払額は、6,234百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、△13,323百万円（前年同期比3,321百万円の支出増）となりました。この支出の主な内容は、固定資産の取得等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、6,548百万円（前年同期比7,930百万円の収入増）となりました。収入増の主な理由は、短期借入金の増加によるものです。

Non-Consolidated Financial Statements — 中間個別財務諸表等

中間個別貸借対照表

単位:百万円

科目	第55期	第56期(中間期)
	平成19年3月31日現在	平成19年9月30日現在
資産の部		
流動資産	85,312	93,494
固定資産	145,678	147,600
有形固定資産	48,520	48,750
無形固定資産	3,253	3,123
投資その他の資産	93,904	95,726
資産合計	230,990	241,095
負債の部		
流動負債	51,023	60,502
固定負債	14,801	14,210
負債合計	65,824	74,713
純資産の部		
株主資本	159,477	163,507
資本金	31,117	31,117
資本剰余金	40,659	40,659
資本準備金	40,659	40,659
利益剰余金	90,265	94,301
利益準備金	7,779	7,779
その他利益剰余金	82,486	86,522
固定資産圧縮特別勘定積立金	452	452
別途積立金	72,700	77,000
繰越利益剰余金	9,333	9,069
自己株式	△2,565	△2,571
評価・換算差額等	5,688	2,874
その他有価証券評価差額金	5,688	2,874
純資産合計	165,166	166,382
負債・純資産合計	230,990	241,095

中間個別損益計算書

単位:百万円

科目	第55期(中間期)	第56期(中間期)
	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで
売上高	83,876	87,660
売上原価	50,159	52,349
売上総利益	33,717	35,310
販売費及び一般管理費	31,060	32,268
営業利益	2,657	3,041
営業外収益	3,888	4,671
営業外費用	282	409
経常利益	6,263	7,303
特別利益	178	2,008
特別損失	294	318
税引前中間純利益	6,146	8,993
法人税、住民税及び事業税	2,868	4,134
法人税等調整額	△351	△1,008
中間純利益	3,629	5,866

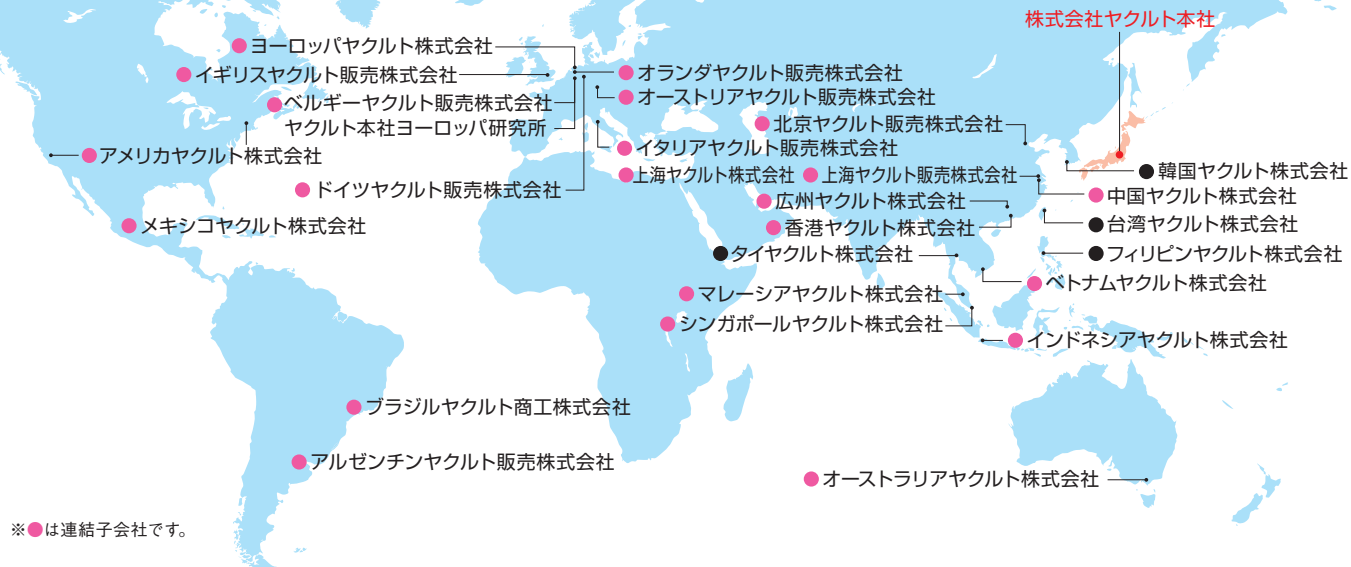
中間個別株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)

単位:百万円

	株主資本						
	資本剰余金			利益剰余金			
	資本金	資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		
					固定資産 圧縮特別 勘定積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金
平成19年3月31日残高	31,117	40,659	40,659	7,779	452	72,700	9,333
中間会計期間中の変動額							
別途積立金の積立	—	—	—	—	—	4,300	△4,300
剰余金の配当	—	—	—	—	—	—	△1,830
中間純利益	—	—	—	—	—	—	5,866
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	—	4,300	△263
平成19年9月30日残高	31,117	40,659	40,659	7,779	452	77,000	9,069

	株主資本			評価・換算差額等		純資産 合計
	利益剰余金 利益剰余金 合計	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日残高	90,265	△2,565	159,477	5,688	5,688	165,166
中間会計期間中の変動額						
別途積立金の積立	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	△1,830	—	△1,830	—	—	△1,830
中間純利益	5,866	—	5,866	—	—	5,866
自己株式の取得	—	△5	△5	—	—	△5
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	△2,814	△2,814	△2,814
中間会計期間中の変動額合計	4,036	△5	4,030	△2,814	△2,814	1,216
平成19年9月30日残高	94,301	△2,571	163,507	2,874	2,874	166,382

海外事業所



連結子会社 (67社)

主要な連結子会社

- 千葉中央ヤクルト販売株式会社(「ヤクルト」等の販売)
- 株式会社神戸ヤクルト工場(「ヤクルト400」等の瓶詰)
- ヤクルト商事株式会社(「ヤクルト」等の販売用資機材の販売)
- 株式会社ヤクルトマテリアル(香料等の製造販売)
- ヤクルト食品工業株式会社(麺類の製造販売)
- 中央ヤクルト物流株式会社(「ヤクルト」等の輸送)
- 株式会社ヤクルト球団(プロ野球の興行)
- メキシコヤクルト株式会社(「ヤクルト」等の製造販売)

各地区販売会社・瓶詰会社

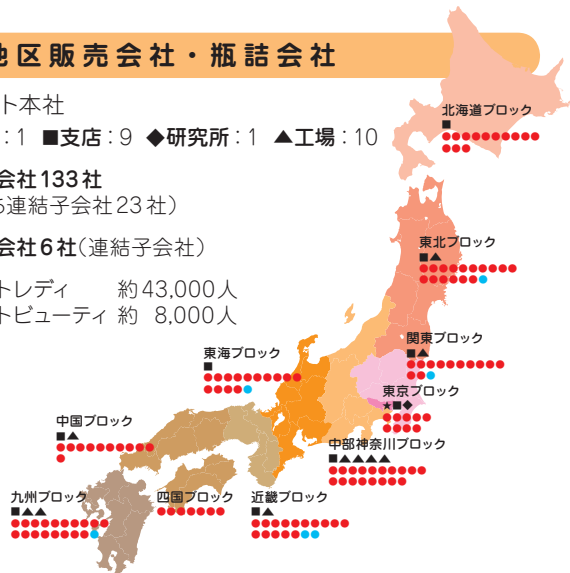
ヤクルト本社

★本店：1 ■支店：9 ◆研究所：1 ▲工場：10

●販売会社133社
(うち連結子会社23社)

●瓶詰会社6社(連結子会社)

ヤクルトレディ 約43,000人
ヤクルトビューティ 約8,000人



会社概要

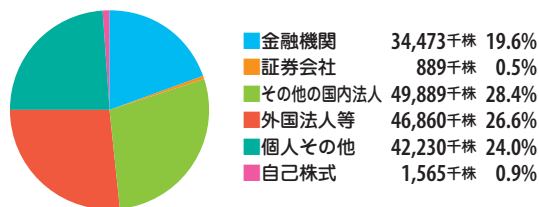
商号 株式会社ヤクルト本社
(YAKULT HONSHA CO.,LTD.)
設立 昭和30年4月9日
本店 東京都港区東新橋1丁目1番19号
電話 03(3574) 8960(大代表)
資本金 311億17百万円
従業員 2,448名

(注) 上記従業員数には、出向者・嘱託は含まれていません。

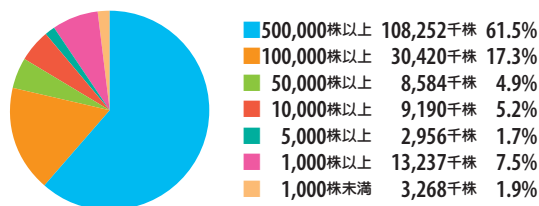
株式の状況

発行可能株式総数……………700,000,000株
発行済株式総数……………175,910,218株
株主数……………27,856名

所有者別分布状況



所有者株式数別分布状況



役員

代表取締役社長	堀 澄也	取締役	根岸 孝成	取締役	竹村 雅行
専務取締役	勝又 昭	取締役	村田 泰文	取締役	荒木 敏博
専務取締役	釣谷 尚正	取締役	根岸 正広	取締役	星野 哲也
専務取締役	田中 隆一郎	取締役	阪本 重善	取締役	阿部 泰久
専務取締役	富部 保	取締役	成田 裕	常勤監査役	三浦 泰邦
専務取締役	千野 龍二	取締役	澤田 治司	監査役	中村 輝夫
常務取締役	寺田 清	取締役	ジャックヴァンサン	監査役	奥平 哲彦
常務取締役	大坪 勝己	取締役	イマエエルファベル	監査役	角屋 良平
常務取締役	川端 美博	取締役	スヴェントマレン	監査役	池田 雅彦
常務取締役	衣笠 剛	取締役	マルセルベルト	監査役	谷川 清十郎
取締役	甲斐 千束	取締役	池上 昭二		

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
エムエルピーエフエス ノミネー/ダノン アジア ホールディングス プライベート リミテッド	35,212	20.02
松尚株式会社	11,530	6.55
株式会社フジテレビジョン	6,492	3.69
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口	4,957	2.82
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	4,374	2.49
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	4,063	2.31
共進会	4,048	2.30
日本生命保険相互会社	2,920	1.66
麒麟ビバレッジ株式会社	2,458	1.40
中村輝夫	2,030	1.15

(注) 共進会は、当社の取引先である販売社を会員とする持株会社です。

おいしい食事を楽しみたいけれど、血糖値が気になる——。そんな方におすすめなのが、ヤクルトの蕃爽麗茶。印象的な映像と伊東四朗さんの迫力あるナレーションのCMをご覧になった方も多いかと存じます。今回のコラムは、この蕃爽麗茶の秘密に迫ります。

Q 蕃爽麗茶って何？

A 血糖値が気になる方に適した特定保健用食品です。

食 生活の欧米化や運動不足などによって、糖尿病などの生活習慣病が増加しています。厚生労働省の糖尿病実態調査(2002年)によると、糖尿病患者やその予備軍と言われる人は、実に1,600万人以上。成人の6.3人に1人は、**血糖値に気を配った食生活**を心がけることが求められているのです。

蕃爽麗茶は、こうした**血糖値が気になる方**に適した新しいタイプのお茶。食事と一緒に飲みいただくと、蕃爽麗茶に含まれる「**グアバ葉ポリフェノール**」の働きで、**糖の吸収がおだやか**になり、食後の急激な血糖値の上昇が抑制されます。

Q 最近よく耳にする「特定保健用食品」とは？

A 体調を整える効果が証明され、厚生労働省からその表示を認められた食品です。

「保 健機能食品(特定保健用食品)とは、**体調を整える働きのある成分を加えた食品**で、保健の効果が医学・栄養学的に証明され、保健の用途・効果の表示を厚生労働大臣が許可した食品。略して「**トクホ**」とも呼ばれています。蕃爽麗茶は、**グアバ葉ポリフェノール**の働きが認められ、平成

12年3月に厚生労働省からこの表示許可を受けました。

ただし、蕃爽麗茶をたくさん飲んだからと言って、疾病などが治癒するわけではありません。また、糖尿病の治療を受けている方や糖尿病の疑いのある方は、医師などの専門家にご相談のうえでご利用ください。



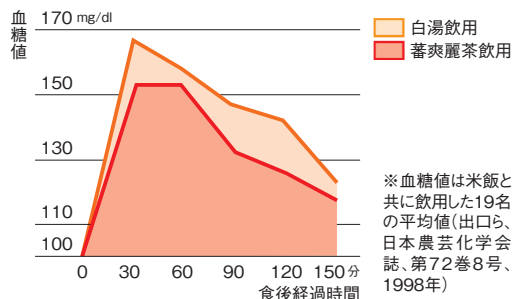
Q どうして体にいいの？

A グアバ葉に含まれるポリフェノールが、糖の吸収をおだやかにするためです。

蕃 爽麗茶の原料は**グアバ葉**。あまり聞き慣れない名前かもしれませんが、熱帯・亜熱帯地方で広く栽培されている木です。この葉を陰干しにして乾燥させ、お茶としたのがグアバ茶です。このグアバ葉に含まれる**ポリフェノール**が、体内での糖の吸収をおだやかにしてくれるのです。

このグアバ葉ポリフェノールは、緑茶やウーロン茶には含まれない、グアバ葉独自の成分。蕃爽麗茶は**厳選された高品質のグアバ葉**を使用し、当社独自の製法によりグアバ葉独自のクセのある香りをマイルドで飲みやすい味に仕上げています。

蕃爽麗茶飲用による食後血糖値への影響



もっと蕃爽麗茶のことを知るには…

ホームページで蕃爽麗茶について詳しく紹介しています。

当社はこの蕃爽麗茶をより多くの方に知っていただこうと、当社ホームページで詳しく説明しています。また、蕃爽麗茶をより多くの方々に継続的にご愛用いただくため、「ハッピーライフキャンペーン」を12月31日まで実施しています。ポイントに応じて乗馬フィットネス機器などが抽選で当たりますので、ぜひこの機会に蕃爽麗茶をお試ください。

BANポイントを集めて応募！
抽選で合計3,150名様にプレゼント

蕃爽麗茶
ハッピーライフキャンペーン

Aコース… 抽選で150名様
National (乗馬フィットネス機器) ジョーバフィット

Bコース… 抽選で1,500名様
蕃爽麗茶400ml×1ケース(24本)+ ランチボックス

Cコース… 抽選で1,500名様
蕃爽麗茶1,000ml×1ケース(12本)+ MY買い物バッグ

蕃爽麗茶をもっと詳しく知るには

http://www.yakult.co.jp/front/products/banso_new/

ホームページの紹介

当社のホームページでは、会社情報、IR情報、商品情報、環境対策などさまざまな最新情報を掲載しております。特に株主・投資家の皆さまに向けましては、トップメッセージ、決算短信、四半期業績のほかIRニュースなども掲載しております。ぜひご覧ください。



<http://www.yakult.co.jp/>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで	
株主総会	定時株主総会	毎年6月中
	臨時株主総会	必要に応じ随時
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
公告掲載新聞	日本経済新聞	
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社	
事務取扱場所	〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番2号（日本ビル4階）	
	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目7番1号 東京証券代行株式会社 代行本部 ☎0120-49-7009	
同取次所	東京証券代行株式会社各取次所	

お知らせ

当社の株主名簿管理人である東京証券代行株式会社は、平成19年11月26日をもって所在地を「東京都千代田区大手町二丁目6番2号（日本ビル4階）」に移転いたしました。なお、ご郵送によるお手続きをなされる場合には上記郵便物送付先へご送付くださいますようお願い申し上げます。

※当社の株式に関する事務につきましては、中央三井信託銀行の本店および全国各支店において取次事務を行っております。

株主優待

当社商品の提供

毎年3月31日現在で100株以上所有の株主の皆さま

- 当社「化粧品」と「ジュース詰め合わせ」のうちお好きな方を進呈（※1,000株以上所有の株主の皆さまは商品内容が異なります）。

東京ヤクルトスワローズが神宮球場で主催するプロ野球公式戦「株主優待証（外野自由席）」の提供

毎年9月30日現在で1,000株以上所有の株主の皆さま

- 対戦するセ・リーグ5チームにつき2試合ずつ計10試合プラス交流試合2試合で計12試合まで。1試合につき外野自由席の入場券2枚まで引き換え可。

毎年9月30日現在で100～999株所有の株主の皆さま

- 年間2試合まで（4～6月で1試合+7月以降で1試合）。1試合につき外野自由席の入場券2枚まで引き換え可。

諸届用紙のご請求

住所変更・改印等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書および株式名義書換請求書等の諸届出に使用いたします用紙のご請求につきましては、次の方法もご利用になれます（24時間、土・日・祝祭日もお受けいたします）。

【電話を利用した自動音声応答による受付】

☎ 0120-16-5805

【インターネットによる用紙のご請求】

東京証券代行株式会社のホームページにおいて、用紙の印刷およびインターネットメールによる用紙のご請求がご利用になれます。

<http://www.tosyodai.co.jp>

「株式に関する用紙のご請求」「株式に関する手続きのご案内」「株式に関する手続きのQ&A」をご参照ください。

Yakult

株式会社ヤクルト本社 証券コード2267
東京都港区東新橋1丁目1番19号 TEL:03-3574-8960（大代表）

R100 PRINTED WITH
SOY INK
本株主優待は、環境保全のため、古紙100%再生紙を使用し、大豆インキで印刷されています。